

質疑応答 (要旨)

- Q: 決算説明資料8ページにある直近3カ月の業績を拝見しますと、採算性の向上が素晴らしく、営業利益が大変高い伸びになっています。全体23.8億円のうち、産業ITだけで21.8億円伸びているのですが、選別受注や単価上昇、パッケージソリューション等、主な要因に分解してご説明いただければと思います。好調とお話のあったエネルギー系も関係しているかと思いますが、いかがでしょうか。
- A: 産業ITの増収要因については、増収効果や不採算案件による影響の改善もありますが、やはり利益率の向上が大きいと考えており、受注採算性を強化する取り組みが着実に進展した成果であると理解しています。なお、エネルギー関連のところでは、会社分割や発送電分離対応そのものという大規模な案件ではありませんが、エンハンスメント領域での対応が増えてきています。
- Q: ご説明もあった決算短信の最終ページ記載の訴訟の影響について教えてください。訴状を受け取られたのは昨年末と結構近いタイミングだと思いますので、すでに費用処理をしたというよりも、今後の進捗等に応じて適宜対処していくという理解でよいのでしょうか。場合によっては、裁判の行方次第で突発的に損失が出ることもありうるのでしょうか。
- A: 訴訟・審理に影響する可能性がありますので、詳細なコメントを控えさせていただきますが、現時点では、監査法人とも協議して適切に対応しており、監査法人から指摘を受けるようなことはありません。また、現段階で今後の損失発生リスクを合理的に予測することが極めて困難である状況につき、ご理解いただければと存じます。なお、決算短信に記載したのは、損害賠償請求金額が非常に大きいということも踏まえて、この事案が発生している事実はお伝えしておくべきだと考えたためです。
- Q: 先ほども質問がありましたが、今回、産業ITが急に伸びているように見えます。全体的に収益性が改善した結果なのか、例えばエネルギー関係で売上と利益の両方に大きく貢献するような短期の案件が入ったのか等について、あらためて教えていただけますでしょうか。
- A: 個別案件で収益性の高いものが急に出てきたというわけではありません。幅広い業種に亘って、比較的順調に推移したということです。先ほどの繰り返しになりますが、受注採算性を強化する取り組みが着実に進展した結果であり、一過性の事象によるものではないと考えています。
- Q: 訴訟に至った案件はすでに終わっているのでしょうか。また、インテックが手掛ける平均的な案件規模から考えると相当大きな損害賠償請求をされているように感じるのですが、なぜでしょうか。
- A: インテックとしてはすでに終了した案件です。損害賠償請求金額がどうしてこれほど大きいのかは、我々としても理解しがたいと感じています。
- Q: 今回、通期業績予想を据え置いていらっしゃるのですが、差し引きですと第4四半期が大きく減益という見え方になりますが、何か大きなリスクが見えていたりするのでしょうか。例えば、産業ITは収益性改善を伴ってよい状況にあり、このまま好調が継続すると考えてよさそうに思います。事業毎の見方を少しご解説いただけますでしょうか。
- A: 現時点で明確な悪材料や業績に大きな影響を与えるようなリスクが見えているわけではありません。期初計画値の達成が優先課題であるとの認識は従来からご説明しているとおりで、第3四半期までの好調な進捗を受けて計画達成の手応えは強まっています。今後もしっかり着地できるように進めてまいりたいと考えています。セグメント別もしくは業種別に考えても、これまでの傾向と特段大きな違いがあるわけではないと考えています。
- Q: 第3四半期の産業ITで受注高が大きく増えている背景について、主な業種毎に教えていただけますでしょうか。
- A: 幅広い業種で増加している状況です。エネルギー系を中心に、製造、流通、サービスも好調であり、全般的に伸びています。
- Q: サービスITは、第2四半期も先行投資コストの増加により、利益率が下がる局面にあったと思います。第3四半期も増収減益という形ですが、これも先行投資コストの影響ということでしょうか。また、こうした状況がいつごろまで続くのか、増益に転じるタイミングはいつごろと考えているのかについて教えてください。
- A: サービスITの営業利益率が前年同期と比べて低下しているのは、ご指摘のとおり先行投資フェーズである影響が大きいことに加え、不採算案件が影響しているためです。そうした影響を除いた利益率で

みますと、第3四半期では前年同期とほぼ同じ水準であり、第3四半期累計では前年同期を上回っている状況です。構造転換を推進するためには先行投資が不可欠であると認識し、積極的に対応している結果として利益率が低下することは、短期的にはやむを得ないものと理解しています。先行投資はまだ続きますが、来期以降は利益率を上げていく局面にしていきたいと考えています。

Q： サービス IT で発生した不採算案件が終わるのはいつくらいでしょうか。それ以降は先行投資コスト部分だけが通常とは別の減益要因になるということでしょうか。

A： サービス IT における不採算案件は第3四半期までで終了しており、今後に影響することはありませんので、第4四半期以降の見方はお考えのとおりになるかと存じます。

Q： 訴訟の件、御社側としてはすでに終わった案件ということなのですが、お客様の方では納得されない状況が続いた結果として訴訟を提起したのだらうと想像しています。その理解でよいのでしょうか。もしそうであれば、お客様から支払いを受けられないという事態が生じたのではないかと、それによって御社側で何らかの処理がすでになされているのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

A： 申し訳ございませんが、現在係争中であり、訴訟・審理に影響する可能性がありますので、ご質問への回答は控えさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします

以 上